

『韓国語教育研究』(第10号)別刷

ISSN 2186-2044

【研究論文】

ICT を活用した韓国語反転授業の実践  
—インクルーシブ教育の観点から—

鄭 鍾熙

日本韓国語教育学会

2020年9月

# ICT を活用した韓国語反転授業の実践 —インクルーシブ教育の観点から—

鄭 鍾熙

이 연구는 경도 발달장애(학습장애)가 의심되는 학습자 1명과 비장애 학습자 16명이 함께 공부하는 외국어로서의 한국어 교실에서 통합교육을 위한 플립수업을 설계하고, 수업에 대한 학습자의 만족도와 성취도를 조사한 것이다. 발달장애가 의심되는 학습자 학생A와의 면담을 통해 학생A와 나머지 학생들의 협동학습, 자립학습에 플립수업이 적절할 것으로 판단하였고, 한 학기 동안 10회의 플립수업을 실시하였다. 학기말에 학생A를 포함한 학생 전원을 대상으로 수업 만족도 조사를 실시하였다. 성취도를 점검하기 위해 플립수업을 실시한 해당 교실과 플립수업을 실시하지 않은 교실의 필기시험과 말하기 시험의 결과를 비교하였다. 학생A는 플립수업에 대해서 높은 만족도를 보였고, 성취도 또한 해당 교실의 평균을 크게 웃돌았다. 이 결과는 온전히 플립수업의 효과로 보기는 어렵는데, 학생A를 위한 교수자의 노력이 학생A 본인의 수업 참여에 심리적으로 큰 영향을 끼친 것으로 파악된다. 비장애 학습자의 경우 플립수업에 대해서 대체로 높은 만족도를 보였지만 성취도는 플립수업을 실시하지 않은 교실과 비교하여 큰 차이를 확인할 수 없었다.

## 1.はじめに

本研究では、外国語としての韓国語教育(以下、KFL<sup>1</sup>)における授業のインクルージョン<sup>2</sup>を目指して考案したICTを活用した韓国語反転授業を実施し、学びに困難を抱える学生を含む全ての学生にとってどのような成果があったかを調査した。本稿では、2019年度秋学期に執筆者の担当する中上級韓国語<sup>3</sup>クラスで行った反転授業の概要を紹介し、受講生に対して行った授業満足度に関するアンケートとインタビュー、達成度テストの分析を基に、大学における韓国語インクルーシブ

---

1 Korean as a Foreign Language

2 障害のあるなしにかかわらず、すべての人を包み込んだ教育(布留川, 2004)。

3 立命館アジア太平洋大学・言語教育センターは、入門クラスとして「韓国語I」、初級「韓国語II」、中級「韓国語III」、中上級科目として「韓国語IV」を開講している。本稿では、2019年度秋学期に行った「韓国語IV」科目の実践を紹介する。

教育の可能性と授業改善の手がかりを探る。

本研究は、2019年度9月に、学びに困難を抱える学生Aから個別相談を受けたことから始まった。学生Aは、軽度の発達障害、とりわけ学習障害の疑いのある学生で<sup>4</sup>、当年度秋学期の韓国語授業の受講に不安を抱えていた。学生Aは、発達障害を診断されておらず、大学からの合理的配慮の対象になっていなかったため、大学の正式な支援を受けていなかった。学生Aは、「考えていることを言語化するのに時間がかかる」、「活字資料は何度も読まないで内容が理解できない」、「何から勉強すればいいかわからない」、「活字より動画などのマルチメディア資料の方が理解しやすい」、「長い文章を書くのが苦手」、「宿題を忘れてしまう」などの困難を訴え、自らの学習障害を疑っていた。毎回の授業内容と活動が予測・準備できるような事前学習が必要であると判断し、当授業の再デザインを試みた。授業全体の知識の伝達量を減らさずにアクティブ・ラーニングの技法を導入すること、障害のあるなしに関わらず全ての学習者を対象にしたインクルーシブ授業を設計する必要があった。反転授業の応用が効果的であろうと期待した。

## 2. 研究背景

### 2.1 韓国語反転授業に関する先行研究

韓国語反転授業<sup>5</sup>に関する研究は、授業の実践と受講生の満足度・達成度を図る研究、ICTの活用に関する研究がその主流を占める。反転授業では、授業外学習においてICTやeラーニング教材が積極的に活用される。一方で、韓国国内における大学授業を対象にした研究と韓国外における大学授業を対象にした研究の両方に、いわゆる「韓国語センター」、「語学堂」のような韓国語を集中的に教える韓国語専門教育機関の授業ではなく、学部の教養選択科目として開設されている韓国語授業における実践研究が共通して目立つ。練習時間や個々の学習者への対応時間の不足を改善する手段として反転授業が導入されるケースが多いと考えられる（中溝, 2018）。選択科目の場合、授業時間が短く、受講生数は多いため、限られた授業時間を活用して四技能を発達させるのは難しい（조진희・지서원・

---

<sup>4</sup> 発達障害を抱える大学生は、「報告」、「学習の振り返り」、「教員の説明を理解すること」、「結果に納得すること」を不得意とするケースが多い(竹田, 2018, p.75)。

<sup>5</sup> 反転授業は、本来は外国語教授法として開発されたものではない。化学教師であった John Bergmann と Aron Sams によって提案された。「講義型授業+課題による復習」の順番をひっくり返して(Flip)、「事前学習+課題解決型授業」にしたものである(召성수, 2017)。

찬와이밍, 2018)。ブレンディッド・ラーニング、とりわけ反転授業<sup>6</sup>を行うことで、教員側の負担を軽減することができる。しかし、反転授業は、授業活動の一部を予習に回して授業時間を稼ぐための手法ではない。学習者個々のニーズに応えやすい授業、自律学習を可能にする授業、学習者の言語水準と理解度に適した問題解決型の授業を実現し、さらには対面授業において多様な教授法の導入を可能にすることが達成度向上に繋がると期待されているのである(유승금・안정화, 2018)。反転授業では、柔軟な学習環境と明確な学習方法を提供し、適切な教育コンテンツを用意することが重要とされる(Hamdan, K., McKnight, P., McKnight, K., Arfstrom, K. M., 2013)<sup>7</sup>。能動的事前学習を促し、学習者間、もしくは教員学習者間の学び合いを通じて、外国語学習者(Language Learner)から外国語使用者(Language User)になれる授業・指導を実現するものである(김세나, 2019)。言語の使用を強化し、学習の全貌を認知的に振り返らせることによって自律学習を可能にする(김강희 2020)。

## 2.2 韓国語インクルーシブ教育の必要性

2016年4月から施行が始まった「障害者差別解消法」により大学には障害者への「合理的配慮<sup>8</sup>」を提供する法的義務、または努力義務が生じた(内閣府, 2016)。独立行政法人日本学生支援機構(以下、JASSO)が2019年3月にまとめた報告書によると、日本の大学、短期大学及び高等専門学校における障害学生数は37,647人で、前年度より3,835人増加している。障害学生37,647人のうち支援を受けている学生は18,702人で、その過半数が精神障害(5,771人、全体の30.9%)、発達障害(4,990人、全体の26.7%)による学びの困難を抱えている<sup>9</sup>(JASSO, 2019)。しかし、大学を含む多くの高等教育機関で行われてきた主な支援は、多数の「障

---

<sup>6</sup> 조진희・지서원・찬와이밍(2018)は、反転授業を指す用語として「フリップ・ラーニング(플립 러닝)」を使用している(국제한국어교육학회 제 28 차 국제학술대회)。韓国では Flipped Learning の訳語として、「플립 러닝」、「플립트 러닝」、「역전 학습」、「거꾸로 학습」などの用語が混用されてきたが、現在は「플립 러닝」が最も広く使われている(안미리, 2016)。

<sup>7</sup> インクルーシブ教育や学びのユニバーサルデザインにも共通する点であると言える。

<sup>8</sup> 合理的配慮の提供とは、障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することである(内閣府, 2016)。

<sup>9</sup> 大学に在籍している障害学生数は33,683人で調査対象となった大学の在籍者総数の1.11%にあたる。肢体不自由(8.0%)、聴覚・言語障害(6.8%)、その他の障害(5.3%)、視覚障害(3.4%)、重複(2.0%)と報告されている(JASSO, 2019, p.21)。

害のない者」に「障害のある者」を組み入れるための「手助け」に過ぎない場合が多い。大学では、特別支援学校のような学習上・生活上の自立を目指す教育・サポートは実現しにくく、その需要でさえも把握されていないことが多い現状がある。また、学生Aのように、診断されていない者は支援の対象から除外されることがある。障害のあるなしに関わらず、全ての人の特性を活かした教育、多様な特性があることを前提にした教育の実践とアセスメントが先行しない限り、インクルーシブ教育の実現は容易ではない。かつて、布留川（2004）は、障害のある者とない者に分けて考える、いわゆる「インテグレーション」は、圧倒的多数を「主」として作られた基準が「通常の形式」となるという点で「インクルージョン」とは区別されなければならないと指摘した。一人ひとりの違いに応じた教育システムを進めることが「インクルージョン」であると考えたのである（布留川, 2004, p.245）。

外国語教育分野でも、障害学生支援やインクルーシブ教育に対する関心は高まってきている。国内では、とりわけ日本語教育の分野で学習者の多様なニーズに寄り添った授業開発が提案されるなど（河住・浅野・藤田・北川・秋元, 2016; Unkel, Monika, 2018）、インクルーシブ外国語授業の実現へ向けての議論が始まっている。日本語、英語以外の外国語教育分野における障害者支援に関する研究はまだ十分ではなく、韓国語研究の分野では、失語症例に関する研究（木島・吉野・河村・河内・白野, 1997）、聴覚障害と言語使用に関する研究（金&伊藤, 2008）など、韓国語話者の障害と言語使用に関する研究があるが、これらはKFL環境における授業や学習者を対象にしたものではない。韓国国内においては2000年代半ば以降、障害者支援と国語教育に関する研究が盛んになった。学びのユニバーサルデザイン（以下、UDL）に関する研究（박재국・김정희・김소희, 2006; 송예진・장미경, 2016;）、ディスレクシアとハングル学習に関する研究（김용옥・우정한・신재환, 2015; 김용옥・김정일・우정한, 2016; 정혜림・김보배・양민화・이애진, 2016）、特殊学校<sup>10</sup>における国語科教育及び母語としての韓国語使用、言語特性、教師の認識に関する研究（강경숙, 2013; 박향숙・박재국・김은라, 2016; 김화수・이숙・서다희・엄윤지, 2017; 홍재영, 2018）などが参考になる。しかし、これらの研究もKFL環境とその学習者にとりわけ注目したものではない。정승연・황윤지(2014)の「障害人のための韓国語能力試験(TOPIK)運用方法に関する研究」

---

<sup>10</sup> 特殊学校は、特殊教育を必要とする人に対して通常学校に準ずる教育と実生活に必要な知識・技能を行うことを目的とする（韓国『初・中等教育法』，法律第16672号）。

では、視覚の不自由な受験者と臨時試験監督官に対してインタビュー調査を行っている。KFL分野で行われた障害者支援に関する貴重な研究と言えよう。

## 2.3 ICTの活用

反転授業初期の研究では、「マルチメディア」、「コンピューター」、「VCRs」、「ウェブサイト」、「パワーポイント」などの機器・アプリケーションを活用した「ウェブクラス(Web Class)」による事前学習と対面授業を組み合わせる試みがあった (Maureen J. Lage, Glenn J. Platt, Michael Treglia, 2000)。近年、報告されている反転授業研究では、教員側によって制作・編集された動画教材や動画配信サービスの映像を活用しているケースが多い。ICT<sup>11</sup>は、通信技術を活用したコミュニケーションを指すが、主に国内における研究で広く使用されていることが確認できる。一方、ICTはインクルーシブ教育を行う際に、障害のある学生も他の学生と同じように、通常のカリキュラムから排除されることなくするツールとして、国内外で盛んに研究と実践が行われている (近藤, 2016)。

## 3. 研究目的

本研究では、ICTを活用した韓国語反転授業が、①学びに困難を抱える学生Aの授業満足度・達成度、②その他の学習者の授業満足度・達成度にどのような影響を及ぼすかを調べ、ICTを活用した反転授業が韓国語インクルーシブ教育の一授業案として有効であるかどうかを考察する。学生Aの抱える困難とニーズを反映した授業であること、全ての学習者の能動的自律学習を実現すること、円滑な協働学習を可能にすること、学習者の韓国語能力を上達させる効果が認められることを実証する。なお、本授業は、全員が一定の水準に達することを目的とする完全習得学習型の反転授業である。CEFR B1からB2<sup>12</sup>の間、またはTOPIK4級<sup>13</sup>以上のレベルに達することが望ましいと設定した。

---

<sup>11</sup> Information and Communication Technology.

<sup>12</sup> 外国語学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠。B1~2 レベルでは、身近な話題、専門分野の議論、抽象的・具体的な話題が理解できる「自立した言語使用者」であることが求められる (文部科学省, 2018)。

<sup>13</sup> 「公共施設の利用や社会的関係の維持に必要な言語機能を遂行することができ、一般的な業務に必要な機能を実行できる」、「ニュースや新聞をある程度理解でき、一般業務に必要な言語が使用可能」、「よく使われる慣用句や代表的な韓国文化に対する理解をもとに社会・文化的な内容の文章を理解でき、使用できる」レベルである (韓国教育財団, 2020)。

#### 4. 授業概要

本研究では、通常週に90分の授業を4回、学期に計56回の講義を行う中上級韓国語課程において、計10回の反転授業を行った(表1.)。反転授業は、30分の事前学習と90分の対面授業の組み合わせで構成される。事前学習では、動画教材視聴の上、教員からの問いかけ(表2.)に対する答えの作成、事例調査、語彙リストの作成、クイズなどを行うように指導した(表1.の問題提起)。事前学習で作成・調査した語彙リスト、クイズ、調査内容は、対面授業開始時において学習者間で、もしくは教員と確認し合う時間を設けた(表1.の協働学習)。問題提起の主旨を理解し、更なる問題提起と言語の使用、知識の拡張に繋げていくための導入を行った。協働学習では、事前学習の確認と対面授業で取り組む課題への理解を明確にするために、日本語・英語<sup>14</sup>の使用を許可している。問題解決のための授業活動では、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、作文、レポート作成、ロールプレイなどのアクティブ・ラーニングを中心にPBL学習を行った。教員は、事前学習、協働学習、問題解決を通して学んだ内容について簡単な捕捉・解説を行う(表1.の要約)。学習者は、対面授業の最後の10分間を利用して、自己の学習に対する評価をし、教員からフィードバックを受ける。対面授業時間に制限があるため、十分な時間が取れない場合は宿題として提出させた。自己評価とフィードバックは、第2回目の授業までは印刷した紙を配っていたが、3回目の授業から、MANABA<sup>15</sup>システムにアンケートを作成し、教員がコメントを入力する方式へ変更した。

表 1. 韓国語反転授業の流れ

事前学習	対面授業			
動画 ➡ 問題提起	協働学習	問題解決	要約	評価 ➡ フィードバック
30分	10分	60分	10分	10分
言語使用の観察・理解 背景知識の習得	導入	言語使用 知識の拡張		事後評価による 認知の強化

<sup>14</sup> 当クラスは、日本人母語話者 11 名、英語基準の留学生(英語が母語ではないが、日本語よりは英語の方が得意とする学生)5 名、英語母語話者 1 名で構成されている。障害を抱える学生 A は、日本語母語話者である。

<sup>15</sup> クラウド型のラーニング・マネジメント・システム。

表 2. 各回の授業テーマと事前学習で提示した課題の詳細

各回	テーマと課題	詳細
1	授業テーマ	통계로 보는 한국의 환경문제.
	課題の詳細	▶동영상(뉴스)을 보고 내용과 맞는 그래프를 고르십시오. ▶동영상(미세먼지에 관한 정보 프로그램)를 보고 다음 질문에 대답하십시오. - 미세먼지는 어떻게 발생합니까? - 미세먼지를 방지하기 위한 방법에는 어떤 것들이 있습니까? ▶여러분 고향/나라의 환경문제에 대해서 조사하고 그 해결 방법에 대한 의견을 쓰십시오.
2	授業テーマ	5G 통신이 가져올 미래.
	課題の詳細	▶동영상을 보고 다음 질문에 대답하십시오. - 4G 통신과 5G 통신의 차이점은 무엇입니까? - 5G 통신은 어떤 분야에 응용할 수 있습니까? ▶5G 통신 기술을 이용한 새로운 산업의 예를 찾고 그 내용을 요약하십시오.
3	授業テーマ	붕붕붕, 아주 좋은 전기 자동차.
	課題の詳細	▶동영상을 보고 다음 단어의 설명으로 맞는 것을 선으로 연결하십시오. ▶기사를 읽고 요약하십시오.
4	授業テーマ	여러 말, 여러 문화와 함께 살아요.
	課題の詳細	▶동영상을 보고 다음 질문에 대답하십시오. -다문화 가정이란 무엇입니까? -베트남/중국 엄마가 아이들에게 베트남어를 가르치는 이유는 무엇입니까? ▶우리 학교의 다언어·다문화 환경에 대해서 생각해 봅시다. 서로 다른 언어와 문화를 가진 사람들이 한 곳에 모여 살 때 좋은 점/어려운 점이 있습니까?
5	授業テーマ	성형 관광은 강남스타일?
	課題の詳細	▶동영상을 보고 다음 질문에 대답하십시오. -성형 관광이란 무엇입니까? -이월비 씨는 한국의 성형 문화에 대해서 어떻게 생각하고 있습니까? ▶성형 관광에 대한 여러분의 생각을 쓰십시오. 아래 세 가지 측면을 생각하면서 좋은 점/ 조금 더 신중하게 생각해야 할 점에 대해서 써 보십시오.

		<ul style="list-style-type: none"> <li>-새로운 비즈니스</li> <li>-의료 행위, 우리의 건강</li> <li>-아름다움의 기준과 사회적 가치</li> </ul>
6	授業テーマ	프리미엄 브랜딩의 세계.
	課題の詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶동영상을 보고 다음 질문에 대답하십시오.</li> <li>-프리미엄 브랜딩이란 무엇입니까?</li> <li>-다음 설명을 읽고 브랜드 A~E 가 프리미엄 브랜드인지, 미들 브랜드인지, 매스 브랜드인지 피라미드 안에 써 넣으십시오.</li> <li>▶프리미엄 브랜딩으로 성공한 기업, 또는 상품의 예를 찾고 관련 자료를 준비하십시오.</li> </ul>
7	授業テーマ	이중섭의 '흰 소'.
	課題の詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶동영상을 보고 다음 질문에 대답하십시오.</li> <li>-이중섭의 일생을 간단하게 요약하여 쓰십시오.</li> <li>-마사코 부인은 이중섭이 어떤 사람이었다고 말하고 있습니까?</li> <li>▶다음 그림을 보고 여러분의 느낌을 한국어로 써 봅시다.</li> </ul>
8	授業テーマ	저 산으로 가며 쓱쓱국 쓱국.
	課題の詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶동영상을 보고 다음 질문에 대답하십시오.</li> <li>-한국 민요의 특징으로 맞는 것에 모두 O 하십시오.</li> <li>-로르 씨는 판소리의 어떤 점이 어렵다고 말하고 있습니까?</li> <li>-선생님이 로르 씨를 한국으로 부른 이유는 무엇입니까?</li> </ul>
9	授業テーマ	'반일'과 '혐한' 사이.
	課題の詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶동영상을 보고 다음 질문에 대답하십시오.</li> <li>-반일 감정, 반일 활동 등에 대해서 한국인 친구들에게 물어보고 싶은 것을 3가지 쓰십시오.</li> <li>-혐한 감정, 혐한 시위 등을 없애기 위해서 우리가 할 수 있는 일에 대해서 생각해 보십시오.</li> </ul>
10	授業テーマ	태조 왕건, 고려를 세우다.
	課題の詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶동영상을 보고 다음 질문에 대답하십시오.</li> <li>-흑창이란 어떤 정책입니까?</li> <li>-팔관회, 연등회를 개최한 이유는 무엇입니까?</li> <li>▶여러분 고향/나라의 역사적으로 유명한 인물 한 명에 대해서 간단하게 조사하고 발표합니다.</li> </ul>

事前学習では、対面授業で行うディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、作文、レポート作成、ロールプレイなどに備えて、資料収集、スクリプトの作成、語彙リストの作成などを行い、テーマに関する知識のみならず、授業活動のための十分な学習ストラテジーが確保できるように指導した。以下、第1回目の事前学習の例を示す(図1.)。協働学習では、事前学習での内容を学習者間で、または教員と確認し合う。事前学習の成果を確認・捕捉することによって、学習者は問題解決に向けて明確なビジョンを獲得することができる<sup>16</sup>。以下、第1回目の協働学習の例を示す(図2.)。

図 1. 事前学習の例

**10월 15일까지 MANABA Report에 업로드 하십시오.**

• 동영상(뉴스)을 보고 내용과 맞는 그래프를 고르십시오 (번호를 쓰십시오).

• 동영상(미세먼지에 관한 정보 프로그램)을 보고 다음 질문에 대답하십시오.

연대별 평균기온 변화

1. 미세먼지는 어떻게 발생합니까?

2. 미세먼지를 방지하기 위한 방법에는 어떤 것들이 있습니까?

• 여러분 고향/나라의 환경문제에 대해서 조사하고 그 해결 방법에 대한 의견을 쓰십시오.

図 2. 協働学習の例

**선생님과 같이 이야기합니다.**

1. 한국어로 그래프 읽는 방법.
2. 동영상의 내용과 맞는 그래프는 몇 번입니까?

**그룹을 만들고 친구들과 같이 이야기합니다.**

1. 미세먼지는 어떻게 발생합니까?
2. 미세먼지를 방지하기 위한 방법에는 어떤 것들이 있습니까?
3. 여러분 고향/나라의 환경문제에 대해서 조사한 것을 발표합니다.

어떤 문제가 있습니까? 어떻게 해결할 수 있습니까?

授業活動は、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、作文、レポート作成、ロールプレイなど、事前に学習した内容を言語化し、韓国語の使用へ拡張、先行知識を応用する活動で構成される。以下に、各回の授業活動の詳細を示す(表3.)。

<sup>16</sup> この段階は「ブリッジ」と呼ばれる。個々の事前学習の質にばらつきが生じる問題を解決できる(김강희, 2020)。

表 3. 各回の授業活動の詳細

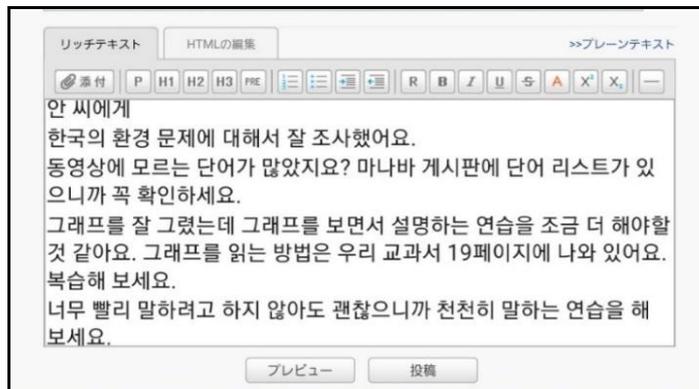
各回	授業活動の詳細
1	▶본문을 읽고 그래프 그리기 ▶그래프 보면서 말하기
2	▶비교하면서 설명하기
3	▶짧은 토론(전기 자동차의 장점과 단점에 대해서)
4	▶디베이트(영어를 공용어로 지정해야 한다/아니다)
5	▶롤플레이(한국 성형외과를 찾은 외국인 환자와 의사 선생님)
6	▶리포트 쓰기(프리미엄 브랜딩 사례조사)
7	▶짧은 발표(내가 좋아하는 예술가에 대해서)
8	▶음악을 듣고 감상문 쓰기
9	▶짧은 토론(반일 감정과 혐한 감정에 대해서)
10	▶짧은 발표(위인의 일생과 업적에 대해서)

協働学習が終わったら教員は内容を補足し(要約)、自己評価とフィードバックを行う。自身の学習活動に対する振り返りを通じて自律学習を誘導する。自己評価項目とフィードバックの例を以下に示す(表4)。

表 4. 自己評価項目

評価項目	当てはまるものに○をしてください。	コメント
事前学習	동영상을 잘 이해하고 수업에 활용했다. ◆-----◆-----◆-----◆-----◆ そう思わない      どちらとも言えない      強くそう思う (以下、評価軸の表記は省略)	
	수업 전 질문을 잘 준비해서 교실에서 수업을 들을 때 도움이 되었다.	
授業活動	교실 수업에 적극적으로 참여했다.	
	친구들이 공부해 온 것을 보거나 듣는 것이 내 공부에도 도움이 되었다.	
	수업 주제에 대한 기초적인 지식을 쌓을 수 있었다.	
振り返り	한국어 말하기, 쓰기, 읽기, 듣기 연습이 되었다.	
	사전학습과 이번 수업에서 부족했다고 생각하는 부분에 대해서 쓰고, 이를 보완하기 위해서 다음 수업에서는 어떤 방법으로 공부할 것인지 쓰세요. _____ _____	

図3. フィードバックの例



## 5. 調査概要

本授業の満足度に関するアンケート調査、インタビューは、学びに困難を抱える学生Aを含む17人の受講者全員を対象に、学期終了後の2020年2月3日から同年度2月7日までの間に行われた。インタビューに欠席した2名に対しては、翌月に有線調査を行った。達成度テストは、2020年1月27日と同月28日の両日に行った筆記試験とスピーキングテストの結果を分析する。2019年度春学期の反転授業を実施していない同レベルのクラスと比較することで、反転授業が韓国語能力の向上に有効であったかどうかを明らかにする。2019年度春学期のクラスは、14名の学生が受講した。うち学びに困難を抱える学生はいない。春と秋学期に実施した達成度テストの内容は同じである。

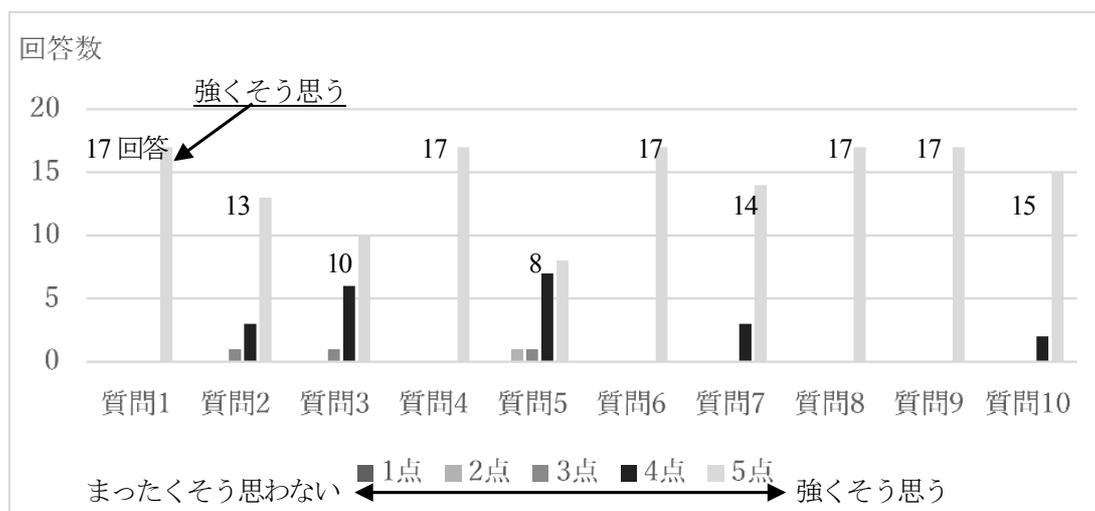
## 6. 調査結果と考察

アンケート調査とインタビュー、達成度テストの結果を示し、韓国語反転授業のインクルーシブ教育として有効性を考察する。学生Aを含む17人全員の結果を示し、学生Aの結果については別途、捕捉を行う。表5.は、授業満足度に関するアンケート調査の質問項目である。「まったくそう思わない」を1点、「強くそう思う」を5点とする5段階評価を行った。アンケート調査後、全員に対し、個別インタビューを行った。インタビューは構造化されていない。アンケート結果の詳細を話してもらった方式で行った。

表 5. 授業満足度調査アンケートの質問項目

項目	質問
1	▶동영상을 보면서 사전학습을 한 것이 도움이 되었다고 생각합니까?
2	▶사전학습은 이해하고 수행하기 쉬웠습니까?
3	▶대면 수업 전에 충분히 사전학습을 진행했다고 생각합니까?
4	▶사전학습과 대면 수업 활동에 대한 선생님의 설명을 잘 이해했습니까?
5	▶그룹 활동을 할 때 적극적으로 발언했습니까?
6	▶그룹 활동을 통해 새로운 사실을 알게 되었다고 생각합니까?
7	▶이 수업을 통해 한국어 실력이 향상되었다고 생각합니까?
8	▶선생님, 반 친구들과 충분히 이야기할 기회가 있었습니까?
9	▶동영상 교재, 마나바, 메신저 연락 등은 알기 쉽고 편리했습니까?
10	▶앞으로도 이러한 수업을 계속 하고 싶습니까?

図 4. 満足度調査結果(全学生)



アンケート調査の結果、受講者はICTを活用した韓国語反転授業に概ね満足していることが分かる。17人全員が動画教材を活用した事前学習は対面授業に役に立った(質問1.)と回答した。インタビューでは、「どんな内容を勉強するのか事前に分かるから準備ができていい」、「テーマごとに使えるような語彙を事前に調べられるのがいい」といった回答があった。事前学習の難易度については(質問2.)、13名が「理解しやすかった(強くそう思う)」と答えたのに対し、3名は

「ややそう思う」、1名は「どちらとも言えない」と回答した。「動画の韓国語が100%聞き取れなかった」、「事前学習の課題を終えるのに毎回2時間以上かかった」、「何を準備すればいいのかわからない時があった」との回答があった。毎回、十分な事前学習を行ったか（質問3.）聞いたところ、「強くそう思う」と答えたのは10名、「ややそう思う」6名、「どちらともいえない」1名の結果となった。しかし、インタビューでは、事前学習に費やした平均時間が17人全員1時間以上であったことが分かっている。うち5名は毎回の事前学習に平均2時間以上を費やしていた。30分程度で終わる想定で設計された事前学習と実際の受講生の学習時間に大きな隔たりが生じた。「30分以内に終わる分量ではない」との回答が多数あった。事前学習の量にばらつきが生じないような工夫が必要である。事前学習と授業活動に関する教員の説明（質問4.）に関しては、17名全員が「明確だった」と回答している。8名の受講生が「授業活動に積極的に参加・発言した」と答えているのに対し、「ややそう思う」7名、「どちらとも言えない」1名、そして1名は「そう思わない」と回答した（質問5.）。インタビューでは、「反転授業であることを忘れてしまって、事前学習をしていないまま参加することがあった」、「グループにすごく喋る人がいて、あまり喋れなかった」、「グループメンバーの日本語が理解できなくて、参加を躊躇した」との回答があった。17名全員は、グループ活動を通して新しい知識を得たと答えた（質問6.）。「調べていないこと、調べたけど詳しく食いつまなかったことを友達が調べてきていて、重要どころだけ聞くことができるから効率がいいと思った」、「いろいろな国の状況を聞くことができた」などと答えている。韓国語能力に関しては、14名が「とても上達した」、3名が「上達した」と回答した。17名のうち16名は「聞き取り」、「話す力」、「書く力」、「読む力」がバランスよく伸びたと答えた。残り1名は「聞き取り」と「読む能力」が特に上達したと回答した。一方で、「もっと日常会話をしたかった」という意見も多かった。17名全員は、事前学習と授業活動において教員やクラスメイトと十分なコミュニケーションを取ることができたと回答している。事前学習においては、MANABAシステムやモバイルメッセージャーを使っていつでも教員に対して質問ができる環境を提供したこと、授業活動においてはグループメンバー間で問題解決の段階に入る前に日本語・英語を使ってコミュニケーションが取れたこと（導入）が役に立ったとの回答が多かった。受講生は全員、動画教材、MANABA、モバイルメッセージャーなどのICTの操作にまったく難しさを感じない（質問9.）。「今後もこのような反転授業を受講

したい」と答えた受講生は15名で、「ややそう思う」と答えた2名も反転授業に肯定的であったものの、事前学習の分量に負担を感じていることが明らかになった。

一方で、学生Aは全質問に対して「強くそう思う」と回答した。インタビューでは、「事前学習を行うことによって授業活動の内容が予測できて心理的に安定した状態で授業に臨んだ」、「資料を読んだり、メモを取って対面授業に参加したので、考えていることを韓国語で言いやすかった」、「自分のペースで資料を読んだり、映像資料を何度も視聴できるのがいい」、「MANABAにイメージファイルで課題がアップロードされるし、課題の提出を求めるお知らせが届くので、何をすればいいのかが分かりやすい」、「語彙を事前に覚えてから授業活動に参加したので、長い文章でも緊張せず読むことができた」と話している。素早く流暢に文字を読む・書くことを苦手とするのは学習障害の代表的な症状とされている(ダックス, 2019)。十分な事前学習とICTによるコミュニケーションによって、学生Aはこれらの障害を和らげることができたと考えられる。また、全員に対するインタビューの結果から、突発的でばらつきのある指導の仕方を定期化し、統一することは発達障害を抱える学習者だけではなく、どのような学習者にとっても学習を円滑にする効果があることが明らかになった。

達成度テストは、90点満点の筆記試験(文法、作文)と10点満点のスピーキングテストの合計100点で算出した。

表6.は、反転授業を行っていない2019年度春学期の同レベルのクラス14名の成績と反転授業を行った秋学期のクラス17名の成績を並べたものである。達成度テストの平均点は、反転授業を行っていない春学期のクラスで89.86点、反転授業を行った秋学期のクラスでは91.35点と、反転授業を行ったクラスの方がやや高いがその差は僅かである。最終評価は、反転授業を行った秋学期のクラスの方が全体的にいい成績であったこと、B評価の受講生がいなくクラス全体がボトムアップできたことを確認することができる。学生Aは、当クラスで最もいい成績を収めた。インタビューでは、「自分のために授業方式を変更してもらっているという認識があって、前学期よりいい結果を残さなければならないと思っていた」と明かしている。

表 6. 達成度テストの結果

春学期達成度テストの結果				秋学期達成度テストの結果			
学生	筆記	スピーキング	総点	学生	筆記	スピーキング	総点
学生1	88	8	96	学生1'	88	7	95
学生2	70	8	78	学生2'	77	7	84
学生3	85	8	93	学生3'	88	10	98
学生4	83	9	92	学生4'	85	9	94
学生5	69	6	75	学生5'	75	6	81
学生6	88	8	96	学生6'	79	8	87
学生7	77	8	85	学生7'	82	9	91
学生8	78	8	86	学生8'	77	8	85
学生9	89	10	99	学生9'	81	10	91
学生10	78	7	85	学生10'	86	9	95
学生11	84	10	94	学生11'	79	9	88
学生12	78	9	87	学生12'	89	8	97
学生13	88	10	98	学生13'	80	8	88
学生14	85	9	94	学生14'	82	8	90
				学生15'	86	8	94
				学生16'	87	10	97
				<b>学生A</b>	<b>88</b>	<b>10</b>	<b>98</b>
クラス平均点		<b>89.86</b>		クラス平均点		<b>91.35</b>	
評価割合				評価割合			
A+	A	B	C	A+	A	B	C
<b>57.14%</b>	<b>28.57%</b>	<b>14.29%</b>		<b>64.7%</b>	<b>35.29%</b>		

## 7. 今後の課題

学びに困難を抱える学生Aの授業満足度・達成度は高く、その他の通常学習者の授業満足度・達成度も高水準であったことを確認した。ただし、達成度に関

しては、反転授業を行っていないクラスと比較して顕著に効果があったとは考えられない結果となった。反転授業は、自律学習を可能にし、学習者の参加意欲を高める効果があると考えられる。しかし、ICTを活用した反転授業が韓国語インクルーシブ教育の一授業案として有効であるかどうかを明らかにするためには、より緻密な調査の設計が必要である。満足度調査の質問項目の妥当性には厳密な検討が必要で、本研究においては、達成度テストの対象学生が異なる点、達成度テストの中身が必ずしも反転授業の内容を網羅しているとは言えない点、インタビュー調査は構造化されておらず、アンケートの内容に沿ってやや恣意的に行われている点などに更なる補完が必要であると考えられる。また、完全習得学習型の反転授業として、CEFR、TOPIKの基準を提示したが、達成度テストとこれらのレベルの基準の相関関係をより明確に提示できなかったのも今後の課題と言える。今回の研究では、障害を抱える学生のデータとしては学生Aから得たデータのみを活用したものの、今後、学生Aのような困難を抱える学習者のデータをもっと収集し、分析・考察する必要がある。学生Aの障害は自己申告によるものであり、医学的根拠はないが、韓国語インクルーシブ授業の可能性を因るための第一歩としたい。一方、ICTを活用した反転授業によって学生Aの授業満足度・達成度に顕著な伸びが見られ、他の学習者からも自律学習、協働学習の利点について広く肯定的な反応があったことが確認できた。韓国語インクルーシブ教育の実践において、反転授業モデルの活用は一定の有効性を有すると考えられる。今後、本研究のような取り組みが増え、KFL分野においてもインクルーシブ教育の観点から授業の在り方を再考する有意義な議論がより活発化することを期待する。

## 8. おわりに

学びに困難を抱える学生はどこにでもいる。それは、障害のあるなしではなく、個々の特性、得意・不得意として理解されなければならないグラデーションのようなものであると考える。そして、教育の現場に立つ教員一人ひとりには、より広く、開かれた姿勢を持って個々の学習者の得意を活かし、不得意を克服させる工夫をしなければならない。世界のKFL学習者数は増加傾向にあり、KFL教育の在り方や学習者の特性もより多様化していくことが予想される。KFL教育の分野でも、「誰一人取り残さない教育」をいかに実現するか問いに応えるための知恵を集める時期に来ているのかも知れない。今年は、新型コロナウイルスの流行が

全世界を感染症の危険に晒し、国内各地でパンデミックを引き起こした。4月には法律に基づく緊急事態宣言が行われ、国公立大学には「適切な対応」が求められている。多くの大学は当年度春学期の全授業をウェブ会議サービスによる、いわゆる「オンライン授業」に切り替えた。そして、混迷した今年度の開講時から5か月余りが経つ。春学期を振り返り、秋学期、またそれ以降の「ポスト・コロナ時代における大学教育」に向けて、各分野の教員・研究者はここ半年間の経験と知識を共有していくのであろう。「オンライン授業」へ切り替わったことによって、学習者は新たな障害に直面しているのかも知れない。自身の抱える学びの困難に初めて気づく学習者もいるであろう。社会・学界の各分野で、そしてKFLの分野でも有益な議論の土台が形成されることを願う。

## 参考・引用文献

- 河住 有希子, 浅野 有里, 藤田 恵, 北川 幸子, 秋元 美晴 (2016) 「日本語教育におけるインクルーシブ教育の実現に向けた授業の提案: 点字五十音図を素材として」日本語教育方法研究会誌 22(3), pp.60-61.
- 韓国教育財団 (2020) 「韓国語能力試験」 [<https://www.kref.or.jp/examination/topik>].
- 金銀珠, 伊藤友彦 (2008) 「日本と韓国の聴覚障害児における格助詞の誤用の比較: 構造格と内在格を中心に」特殊教育学研究 46(1), pp.19-27
- 木島理恵子, 吉野眞理子, 河村満, 河内十郎, 白野明 (1997) 「日本語・韓国語二言語使用者失語症例の検討: 漢字・仮名, 漢字・ハングルの対比を中心に」失語症研究 17(1), pp.1-9.
- 近藤武夫 (2016) 「大学における障害のある学生の ICT 利用: 支援技術および合理的配慮の観点から」コンピュータ&エデュケーション 40, pp.14-18.
- 竹田一則 (2018) 『よくわかる! 大学における障害学生支援』ジアース教育新社, 東京.
- ダックス (2019) 『ヒトはそれを「発達障害」と名づけました』筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター, 茨城.
- 内閣府 (2016) 「障害を理由とする差別の解消の推進」 [<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai.html>].
- 中井俊樹 (2015) 『アクティブラーニング』玉川大学出版部, 東京.
- 日本学生支援機構 (2019) 「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」 [[https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu\\_shien/chosa\\_kenkyu/chosa/index.html](https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/chosa_kenkyu/chosa/index.html)].
- 布留川富雄 (2004) 「サラマンカ声明におけるインクルージョンの意義」佛教大学教育学部学会紀要 3, pp.245-256.
- 文部科学省 (2018) 「各資格・検定試験と CEFR の対照表」 [[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/30/03/\\_icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610\\_1.pdf#search='cefr'](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/_icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610_1.pdf#search='cefr')].
- Unkel, Monika (2018) 「日本語教育の多様性を再考する: インクルーシブ教育の観点から」外国語教育のフロンティア 1, pp.171-185.
- 강경숙 (2013) 「발달장애학생을 위한 미디어활용교육 실태와 요구 파악 및 미디어교육 교육과정 개발」지적장애연구 15(1), pp.79-108.
- 김강희 (2020) 「외국인 유학생을 위한 플립러닝 기반 문법 수업의 설계 및 운영 방안 연구: 실제 사례 및

- 학습자 만족도 분석을 중심으로」 반교어문연구 54, pp.189-222.
- 김성수 (2019) 「플립러닝을 활용한 한국어 수업 운영에 관한 연구」 한국(조선)어교육연구 14 호, pp.171-185.
- 김세나 (2011) 「중국인 학습자를 위한 과제 기반 플립 러닝 한국어 교육 방안: 수업 구성 원리와 교사 역할을 중심으로」 교육문화연구 23(1), pp.529-550.
- 김용옥·우정환·신재환 (2015) 「난독증 연구에 대한 고찰」 특수교육저널 16(2), pp.213-242.
- 김용옥·김경일·우정환 (2016) 「한글 파닉스 접근법에 기초한 단어인지 지도 프로그램이 난독증 학생의 단어인지에 미치는 효과」 특수교육저널 17(4), pp.91-112.
- 김용옥·김경일·우정환 (2016) 「한글 파닉스 접근법에 기초한 단어인지 지도 프로그램이 난독증 학생의 단어인지에 미치는 효과」 특수교육저널 17(4), pp.91-112.
- 김화수·이숙·서다희·엄윤지 (2017) 「국내 경도지적장애인의 언어 특성과 관련된 연구 동향 고찰: 2000 년부터 2016 년까지」 지적장애연구 19(1), pp.21-43.
- 국가법령정보센터 (2020) 「『初·中等教育法』法律 16672 号, 2019 年 12 月 3 日施行」 [http://www.law.go.kr/%EB%B2%95%EB%A0%B9/%EC%B4%88%C2%B7%EC%A4%91%EB%93%B1%EA%B5%90%EC%9C%A1%EB%B2%95].
- 박재국·김경희·김소희 (2006) 「통합교육을 위한 유니버설 디자인에 관한 교사의 인식」 특수교육재활 과학연구 45(4), pp.191-213.
- 박향숙·박재국·김은라 (2016) 「정신지체학생의 기본 교육과정 국어과 운영 실태 및 특수교사의 인식」 특수아동교육연구 18(1), pp.255-280.
- 송예진·장미경 (2016) 「창의, 인성 교육을 위한 서울시 특성화 고등학교 유니버설 디자인 수업 지도안 연구」 조형미디어학 19(3), pp.213-222.
- 안미리 (2016) 「유튜브 동영상을 이용한 플립 러닝 수업의 만족도에 대한 영향과 요인」 Multimedia-Assisted Language Learning 19(1), pp.114-136.
- 유승금·안정화 (2018) 「유폴립 러닝을 활용한 내용 중심 한국어 수업 연구」 국제어문학회 학술대회자료집 2019(1), pp.163-176.
- 정승연·황지유 (2014) 「장애인을 위한 한국어능력시험 운영 방법에 대한 연구: 시각장애인 응시자를 중심으로」 한국어교육 25(1), pp.169-201.
- 정혜림·김보배·양민화·이애진 (2016) 「다문화가정 난독증 위기 이동을 위한 예방적 접근: 한글파닉스 교수의 효과성 탐색」 특수교육저널 17(4), pp.297-321.
- 조진희·지서원·찬 와이밍 (2018) 「블랜드드 러닝을 통한 외국어대학에서의 한국어 교육: 플립 러닝을 적용한 NUS 한국어 수업 운영 중심으로」 국제한국어교육학회 제 28 차 국제학술대회 발표자료, pp. 978-991.
- 홍재영 (2018) 「지적장애 특수학교 국어 수업에서 나타난 교사의 발문과 피드백에 대한 사례 연구」 특수아동교육연구 20(3), pp.189-208.
- CAST (2020). Universal Design for Learning. August 3rd, 2020, Cast Official Webpage, [http://www.cast.org/].
- Hamdan, K., McKnight, P., McKnight, K., Arfstrom, K. M. (2013). A Review of Flipped Learning. Flipped Learning Network, Pearson Education, and George Mason University.
- Maureen J. Lage, Glenn J. Platt, Michael Treglia (2000). Inverting the Classroom: A Gateway to Creating an Inclusive Learning Environment. The Journal of Economic Education Winter 2000, pp.30-44.

(立命館アジア太平洋大学 言語教育センター)

jungjh@apu.ac.jp

---

韓国語教育研究（第10号）

2020年9月15日 発行

---

発行者 文 慶喆

発行所 日本韓国語教育学会

〒577-8052 大阪府東大阪市小若江3-4-1

近畿大学 国際学部 酒匂康裕 研究室気付

編集者 『韓国語教育研究』編集委員会

金世徳、柳朱燕

印刷所 株式会社 仙台共同印刷

---